

2016 World Rowing Senior, U23 & Junior Championships 参加報告書

1. 日 時 : 平成 28 年 8 月 20 日 (木) -28 日 (日)
2. 会 場 : オランダ・ロッテルダム THE WILLEM-ALEXANDER BAAN ROWING COURSE
3. 参加者 : 国際審判員 (愛知県ボート協会所属) 田畑 喜彦

オリンピックイヤーの本年、上記会場にてオリンピック種目以外のシニア、U23、ジュニアの世界選手権が開催された。またパラリンピック以外のパラ種目として LTAMix2X も同時開催された。大会参加国 71、決勝種目 42、参加選手は 1,900 名強、大会関係者はボランティアを含め数百名と FISA 始まって以来の大規模な大会が成功裡に終了した。

① コースについて

- ロッテルダム中心部から車で 20 分程度、海拔-5m の土地に作られたコースである。洪水時には遊水池となり市街地を水害から守る機能も有している。どことなく長良川を彷彿させる景観であるが、それもそのはず木曾山川分流工事を指揮したのはオランダから明治政府により招聘された土木技術者ヨハネス・デ・レーケである。オランダの進んだ河川工学、堤防構築などの土木技術が明治時代初期の日本で利用され、近代化に大いに貢献した。
- 恒久設備は艇庫と判定塔、線審塔、大型電光掲示板のみ。観覧席も含め多くの施設が仮設であった。
- 周辺には自転車用周回路が配置されている。今大会ではコース右手はテレビ中継並びに関係者専用路とされていた。



Introducing Willem-Alexanderbaan Rowing Venue

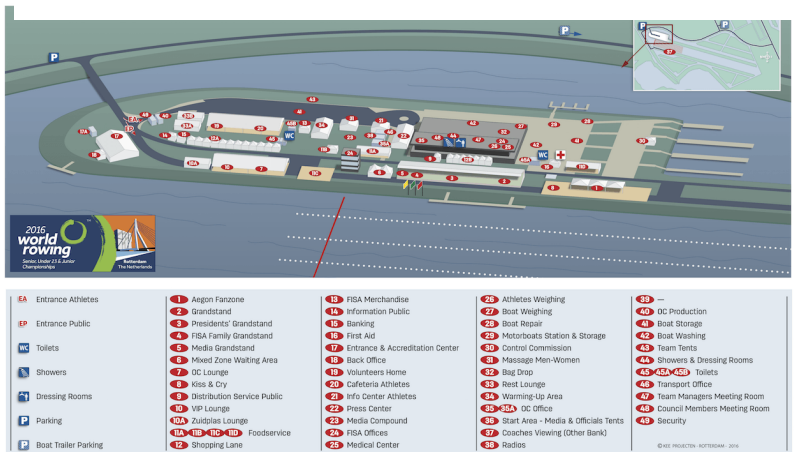


図-1 コース平面図 (上下とも)

- 飲料水はタップウォーター（水道水）を推奨、オランダ水道局が大会スポンサーとなり、選手・審判始め多くの関係者にウォーターボトルを配給していた。例えて言えば東京で水道水を外国人選手に飲めというようなものか。欧州の選手は慣れているのかこの水道水を利用する姿が見られた。オランダでは高度処理した水が飲料水、洗濯・シャワー、トイレにまで使われているとのこと。日本で以前に高度処理した水をトイレの水に使う必要があるかとの議論があったが、ここではそのような議論もなく当たり前を使うらしい。



図-2 艇庫横の水道水蛇口（左）と配布されたウォーターボトル

② 大会運営について

- 今回の大会は FISA 始まって以来の大規模な大会ということもあり、OC による事前の審判向けマニュアル資料配布等配慮の行き届いたものであった。この中には FISA OFFICIALS、UMPIRERING COMMITTEE、ITO、NTO メンバーの顔写真が掲載されており名前と顔を一致させるのに大変役に立った。また、ADVERTISING RULE のチェックに頭が痛いところであるが、要約版も掲載されており大会期間通じ非常に有益であった。（後段に添付）
- 到着した晩、最初の審判ミーティングの前の晩に ITO と NTO の顔合わせがあった。市内のボートハウスでの立食パーティーであったが、事前に顔合わせをするこのシステム、本番でのコミュニケーションを図る上で上述したマニュアルと併せ効果的であり、日本で開催する国際大会でも参考にしたい。
- NTO メンバーにはオランダのみではなく、周辺の多くの国から参加していた。中には FISA の審判資格を有するものも少なからずいた。隣国ベルギーからは車で 1 時間程度という環境もあり、欧州の大会ではこのような協力体制が整備されているようである。日本のような島国では物理的にも隣国の応援は限界があり、NTO の育成が急務である。

③ 大会施設について

- ポンツーンは出・入ともに 2 つ、5 分間隔のレース時には出入り口は大変な混雑となっていた。
- 主審は 5 分間隔のレース時は波を生じさせないためゾーン方式を採用。Final A はレース間隔が 15 分あり、通常のダイナミック方式にて運用。
- 会場エリア全体が -5m、長良川と同じ低排水地にあるため、一旦雨が降るとぬかるんで、いたる所泥だらけになるのが唯一難点であった。

- 発艇・記録システムは SWISS TIMING を使用、タイミング関係は問題なかった。また各ボートに固定された GPS のモニターが判定長席にあり、途中の経過順位を控えておき、RESULT SHEET にサインする際にそれを参考にしてラップタイムとのチェックを行った。
- バウボール 1 個差でゴールしたレースもあったが目視で確認できた。しかし判定長は必ず画像で確認後「RACE ○○、CORRECT」と宣言、OFFICIAL とした。
- 今大会では前述のようなデッドヒートがあった場合、判定塔にいた SWISS TIMING のスタッフが記録が OFFICIAL と宣言された以降、画像を Facebook にアップしていた。

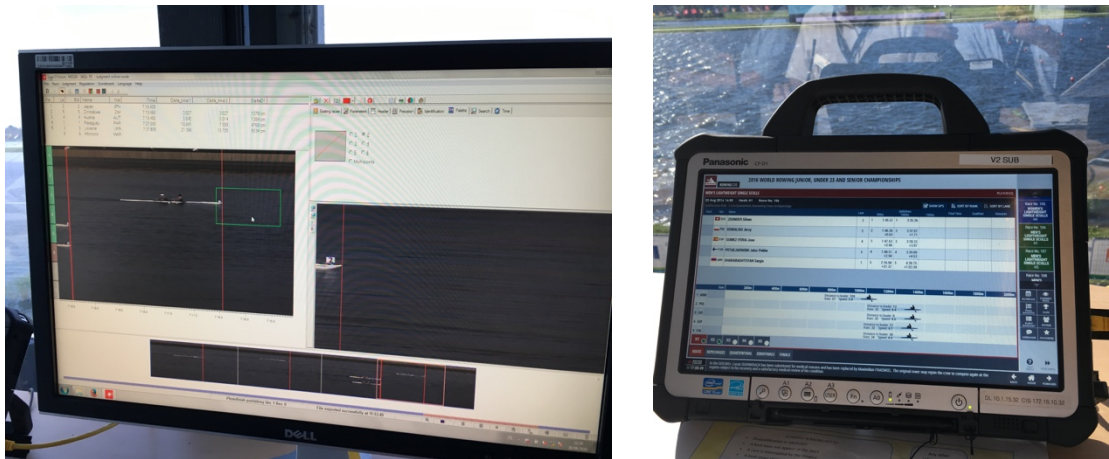


図-3 デッドヒートの写真判定（左）と GPS のモニタ画面。各艇の艇速、距離等が表示される。

- なお、電光掲示板（今でもこういう？）は大型であり LED 方式なのか日が当たっても大変見やすかった。常時レース中継がされており判定ではレースを堪能できた。
- 発艇塔は浮上式、ポンツーンと合わせ機能的であった。フォルススタートのマーカ―も写真の通りシンプルなもの。初日、二日目と荒れた天候であったがレースはほぼ順調に進み監督コーチからもクレームがなかった。まずこれはブーツ式の発艇システムによるところであるがこのようなコンディションに慣れている現地 NTO によるものでもある。
- 回漕路は線審の横でコースとつながっている。このためここに審判（ブリッジスターター）を 1 名配置し、呼び込みを行うことにより速やかなレース運営を可能とした。
- 主審艇は 6 艇用意され専属のドライバーが担当、9 日間の長丁場だったため彼らには途中休日を挟むというローテーションが配慮されていた。乗り合わせたモーターのドライバーに明日のポジションを聞くと、嬉しそうに休日なので子供と過ごすかと答えていた。



図-4 電光掲示板に映された表彰式



図-5 発艇塔からコース全景

- 今大会は主催者が環境を意識しているのか、大会のオフィシャルカーとして BMW の市販電気自動車 i3 (EV) が用意され、審判の輸送、テレビカメラ、実況解説者の足として利用された。i8 も試乗はできなかったが会場の一角に飾られ、人気を集めていた。東京オリンピックでは水素自動車(FCV)がオフィシャルカーとして採用されるとの話も聞く。将来の自動車界の覇権を握るのは、水素自動車か電気自動車か、楽しみなところでもある。



図-6 回漕路からスタート地点へ向かうエイト
左手に線審小屋、その奥が発艇塔



図-7 OFFICIAL CAR の BMW i3 (左) と展示されていた i8

④ 審判業務について

今回の大会は全述のようにイベント数が 42、1,900 人強の参加者という大規模であったため、あらゆる審判部所を経験することができた。9 日間の長丁場、ポジション交代は 2 交代制が途中から 3 交代制となったため、特にコントロールコミッションと主審の回数が多く、アドバタイジング・ルールについては参加した UNPIRERING COMMITTEE MEMBER よりみっちり叩き込んでもらうことができ、大きな成果であった。

● コントロールコミッション

- 前述の通り大きな大会でレースの大半が 5 分間隔、ポンツーンが出・入が 2 つづつ、しかも一箇所に集中するため煩雑を極めた。アドバタイジングも見逃すケースが多く、審判には厳しい大会であった。
- アドバタイジング・ルールに関しては、常に抜け道を探す輩が多い。今回は特にコンプレッションソックスに大きな製造者のマークを配したものが登場した。ポンツーンで見逃してもブリッジスタートへ連絡が届き、確認

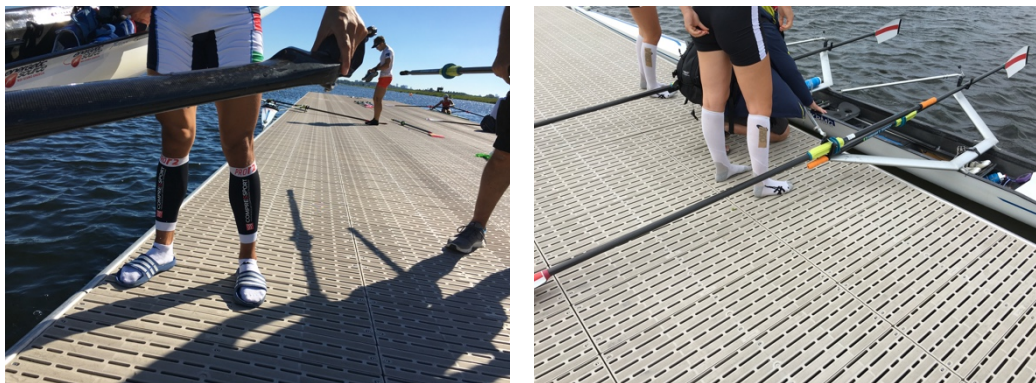


図-8 コンプレッションソックス (左) とゴムテープを貼った事例

すると発艇へ連絡、発艇2分前でそのままの場合、裏返しにするなど促した。出艇桟橋で確認した場合、ロールアップか、裏返しか、それともガムテープを貼るか、脱ぐのか。選択肢はあくまでも選手に委ねられた。

● 主審

- ドライバーは専属、初日からゾーニング方式で行ったが、ラフコンディションのためその必要性はあまり感じなかった。しかし三日目以降は静穏なコンディションとなり、特に5分間隔のレースではその威力を発揮した。今後世界選手権などはこの方式が主流になっていくとのことであるが、主審にとってトップレベルの白熱したレース展開を終えないことはその役得？旨味に欠けると感じるのは私だけだろうか。
- 三日目同乗したドライバは17歳、専門学校生であった。モーター免許は16歳から取得可能らしい。参考に飲酒は二年前に変更になり18歳からとなったがそれまでは16歳から飲酒可能であったとのこと。
- U23男子エイトは地元オランダが優勝した。感極まった地元NTO審判の何人かは泳ぎだし、エイトメンバーと喜びを分かち合っていた。このレース



図-9 U23W2X 優勝の GER と泳ぎ着いて祝福する関係者

に限らず優勝した多くのクルーに関係者が泳いで近づき祝福する姿が見受けられた。これらシーンは World Rowing ホーム

ページにもアップされている。

- 今回の大会の顔ともいべき女性が U23LW1X で優勝した。彼女はゴール後艇計量に回されたが、計量をパスし優勝が確定した途端、満面の笑顔で優勝の感激を現した。彼女はロッテルダム市出身であり、欧州ジュニアチャンピオンの経歴から今大会パンフレットの表紙を飾るほか、開会式プロモーションビデオや市内商業施設のビルに大きな写真が貼られていた。このように町をあげてのボートに対する応援姿勢はボートが地域に根付いている証の一つであることを実感した。



図-10 今大会の顔、MARIEKE KEIJSER (左はビルのディスプレイ、右は艇計量後)

● 判定

- 静止画像システムが採用されており、まずミスジャッジはない。さらに GPS 追尾システムのモニタが判定長席には用意されており、各レースのラップタイム、リアルタイムでの位置、レート、距離、スピードがモニタで

きる。判定長はラップの順位等も含めリザルトシートをチェックし「Race ○○, OFFICIAL」として着順を確定した。

- 判定塔のガラス面は大きく非常に見やすい。正面には大型スクリーンが据えられておりレースを堪能できる環境であった。さらに今大会審判長のパトリックが常駐しており、雑談を交え様々な会話を通じ審判業務について勉強できるという、審判にとって今大会の特等席であった。

● 艇計量

- 計量器は0.1kg表示。テストウェイトにより確認後計量した。驚くことに雨天時シングルスカル14kg ジャストで艇計量に来るクルーがあった。

● 線審

- ブーツシステムではまずフォルススタートは無いものと高をくくっていたが、交代直後にフォルススタートがあった。フリーズした画面でバウナンバー1枚分程度が出ている。横にいたNTOもフォルススタートと叫び、私は同時に赤ボタンを押していた。このような写真は珍しいと思い記録したものが下図である。



図-11 左より発艇遠景、正常なスタート、フォルススタート

- 5分間隔のレースでこの遅れを取り戻すのは厳しいかなと思ったが、何と次の発艇はオンタイムであった。これはレースを即座に止められたこと、ブリッジスタートが次のクルーを早めに呼び込ためこのような速やかな発艇ができたものである。

● 選手計量

- 待合室と計量所に分かれている。並び順が書いてあり分かりやすい。特にトラブルなし。
- 舵手とデッドウェイトは同時に測る？この質問誰かにしようと思います。特に定めはない。TDが決めるとか事前に確認しておく必要あり。



図-12 選手計量場所

● 発艇

- Final A以外のレースは5分間隔のため、トラブル等で遅延が発生するとなかなか時間を取り戻すことは難しいかと思ったが、意外にそうでもない。

- 何と発艇においても False Start を経験したがこの際も3レースほどで取り戻すことができた。これは一重にブリッジスタート、線審との連携による。
- 今期間中サンダーストームにも見舞われ、時折強雨コンディションであったが、ほぼスケジュール通りに進めることができた、これもひとえにブーツシステムによるものである。またこのシステム、一旦艇のトップをブーツに収めるとクルーは横風があっても艇の方向を維持す流ことに気を使う必要もない。徒らに体力を消耗することもなくクルーに優しいシステムとも言える。
- 発艇で同僚のハンガリー人、今回の世界選手権をもって引退であり、最終日前日には私と発艇を行い、最終日最終レース JM8+の主審を務めた。欧州でのレースの経験が豊富で、先輩として私に幾つかアドバイスを与えてくれた。その一つ、パトリックは定刻±2秒以内に発艇しないとうるさいとか。当然私は国内のオンタイム発艇に慣れており、さらにオフィシャルの時計は見やすいため問題はなかった。また日本人は6クルーロールコールはブレードカラーと関連づけるので空で言えるというところちょっとびっくりしていた。アジアでもそうだが、これができるのは日本人とインド人、そしてイギリス人ぐらい？

⑤ その他

● nation's dinner

- ロッテルダム市公会堂で行われた nation's dinner には在オランダ日本国大使館より猪俣弘司日本国大使ご夫妻、FISA ロラント会長、日本からは大久保日本ボート協会会長ご夫妻、FISA Committee Member の細淵氏、千田氏、日浦氏列席の下開催された。挨拶に立ったロッテルダム市長からは71カ国1,900人強が参加する大会がオランダ・ロッテルダムで開催される意義、ダイク（堤防）に守られた海拔-6mの国での水のマネジメントについて深く触れていた。水は友達。タップの水は飲む（安心）と。でも内心味はミネラルに富み、うまくない。日本の水は安全安心でうまい。この違いは海外にアピールできるおもてなしの一つではないかと感じた。



図-13 Nation's dinner

● NTO

- 欧州に暮らす多くの人々は英語が堪能であり、今回の NTO は当然英語でのコミュニケーション能力は問題なかった。また大きな国際大会運営に慣れ親しんでいるのか、機転が利き、小さなトラブルは早めに対処することにより大きなトラブルに至らなかった。
- 名称は不確かであるが、OC's Room でのレース終了後のビール、ワイングラスを片手に ITO と NTO が談笑する場が設定されており、しかもこれらの場は仮設テントであった。
- 最終日レース後、同ルームで簡単な打ち上げが行われた。そこには FISA ロラント会長を始め、OC メンバー、関係者が集い今大会の成功を祝した。また恒例のコン年末で審判定年を迎える審判員に長年の功績を称え、ミニバッチが授与され、今大会の幕がとじられた。

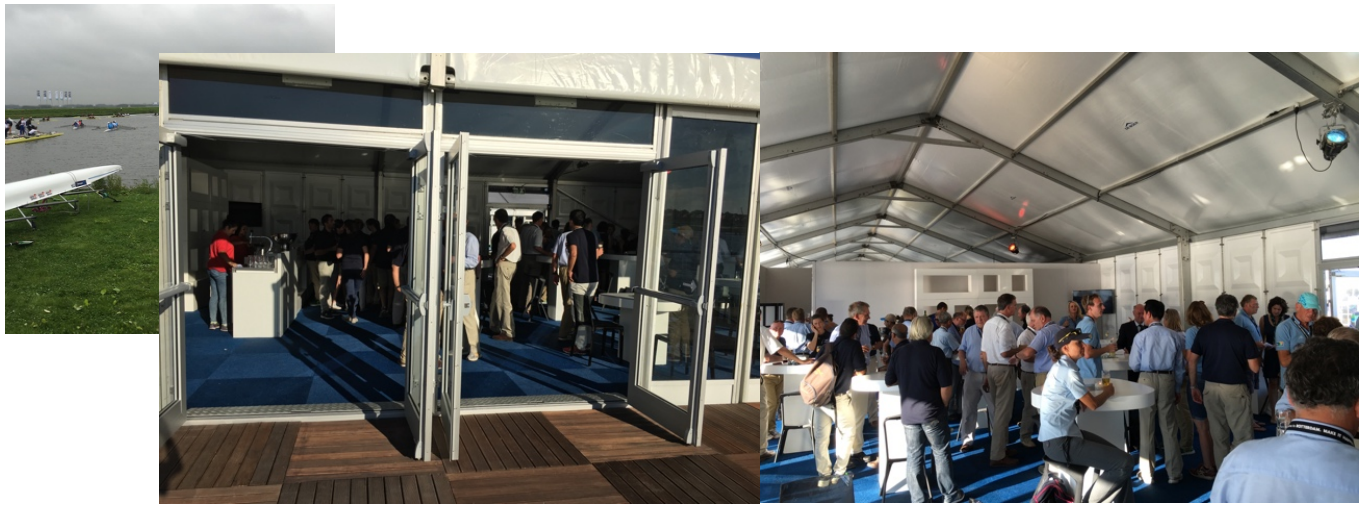


図-14 OC's Room



図-15 警告用マーカー（左）と設置状況（右）



図-16 OC's Room 他の仮設テント（左）とメインスタンド（右） 左は判定塔

最後になりましたが、このような大規模な大会に参加する機会を与您いただきました公益社団法人日本ボート協会木村理事長、千田国際委員会委員長、相浦事務局長、そして事務局藤田様に深く感謝申し上げます、報告とさせていただきます。以上

添付：1 MANNUAL FOR UMPIREのメンバーリスト(ITOとNTOの一部抜粋)

F

FISA Officials



Jean-Christophe Rolland (FRA)



Michael Williams (GBR)



Matt Smith (USA)



Mike Tanner (HKG)



Svetla Otzetova (BUL)



Rosie Mayglothing (GBR)

U

Umpiring Committee



Patrick Rombaut (BEL)



Fabio Bolcic (ITA)



Chris Grudt (USA)



Ines Hammami (TUN)



Gabrielle Isenschmid-Weber (SUI)



Takao Senda (JPN)

I

International Umpires



Mark Bitter (GER)



Peter Boeken (NED)



Nuno Botelho Silva Pais (POR)



Frens Dijkman (NED)



Brian Fiori (CAN)



Urs Guenter (SUI)



Selwyn Jackson (RSA)



Yves de Jonge (BEL)



Chriseley Lang (USA)



Garcia Lucas (ARG)



Manola Marinai (ITA)



Viktoriya
Maydachevska (UKR)



Vanessa Jacki Mc
Iver (NZL)



Laslo Meszaros
(HUN)



Nikola Minic (SRB)



See Hung Ng (HKG)



Kenth Nordh (SWE)



Judith Packer (GBR)



Yoshihiko Tabata
(JPN)



Ronald Walker (IRL)

N

National Technical
Officers



Jeffrey Beuks (NED)



Rob Bijderwieden
(NED)



Ingeborg Bot (NED)



Eelco de Both (NED)



Martijn Broos (NED)



Jeanine de Bruin
(NED)



George Brusse (NED)



Tijn Cox (NED)



Jan-Pieter van Dijke
(NED)



Mark Dijkstra (NED)



Maarten Dubbeling
(NED)



Fran van Essen
(NED)



Nannet Fabri (NED)

添付 2 : Ultra summary of FISA advertising rules

Produced: 2015 July



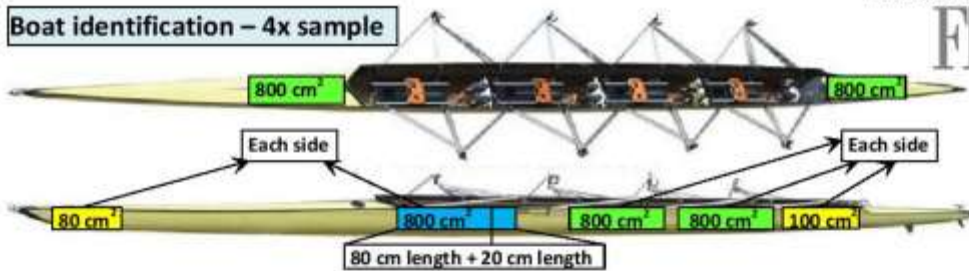
Clothing/Eyewear identification



	Manufacturer	Federation/Club Name	Federation/Club Sponsor	FISA Identification
Shirt (or equivalent)	Once, max 20 cm ²	Once, max 100 cm ²	Once, max 100 cm ²	Once per sleeve, max 100 cm ² each
Short (or equivalent)			One side or both sides (identical), max 50 cm ² each	
Headwear	Once, max 6 cm ²		Once, max 50 cm ²	
Eyewear	Once per arm, max 3 cm ² each; OR once on one arm, max 6 cm ²			
Socks	Once per sock, max 6 cm ² each			

+ **National ID**: no limit in space, if on uniform it must be part of official design approved by FISA (Rule 51), incl. national colors, country name or acronym, national flag

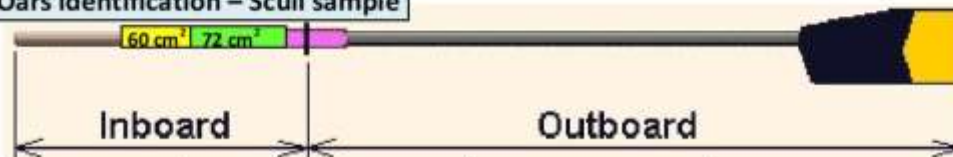
The drawings are indicating the piece of clothing and not the exact positioning of identification. Refer to FISA Rule Book for details.



Place	Identification Type	1x, 2x, 2-, 2+	4x, 4-, 4+	8+
Each Side of Boat	FISA/OC Sponsor + Federation Abr.	First 80 cm of the shell in the section of the boat occupied by rowers	First 100 cm of the shell in the section of the boat occupied by rowers	
	FISA/OC Sponsor	60 cm in front (max 600 cm ²)	80 cm in front (max 800 cm ²)	
	Federation Abr.	20 cm for member federation abbreviation		
Deck	Advertising Space	800 cm ² for front deck + 800 cm ² for back deck		
Each Side of Boat	Advertising Space	1 time 800 cm ²	2 times 800 cm ²	4 times 800 cm ²
	Manufacturer	100 cm ² in the section of the boat occupied by rowers		
	Manufacturer	Logo (80 cm ² , no text) on first 50 cm from the bow		
Riggers	Manufacturer	16 cm ² per rigger		
Fin	Manufacturer	16 cm ² on each side		
Swivel	Manufacturer	8 cm ² once or 4 cm ² once on each side, identical		
Shoes	Manufacturer	6 cm ² per shoe		
Seat	Manufacturer	6 cm ² per seat		

Advertising Space: sponsor identifications area to include name of the boat and Federation/ Club sponsor. Number of sponsors within advertising space is not limited, only the size is limited to 800 cm². Identifications on both sides of the boat and both decks do not need to be identical.

Oars identification – Scull sample



Place	Identification Type	Sculling Oar	Sweep Oar
Outboard	No identifications are allowed on the outboard section		
Inboard	Manufacturer	60 cm ²	
Inboard	Advertising Space	72 cm ²	100 cm ²
Inboard	+ discrete marking to identify owner, boat and/or position		

The drawings are indicating the piece of equipment and not the exact positioning of identification. Refer to FISA Rule Book for details.